

千葉県ブルーカーボン推進協議会 議事録

1 日 時 令和7年1月20日（月）午前10時から12時

2 場 所 ホテルプラザ菜の花4階 楨（Web 併用）

3 出席者

（1）構成員 計6名

千葉県農林水産部水産局	小嶋 局長（会長）
〃 漁業資源課	原 課長
一般社団法人千葉県漁港漁場協会	高梨 常務理事（副会長）
一般社団法人千葉県経済協議会	大木 専務理事
ブルーカーボン共同研究機関	堀 研究代表
ジャパンプルーエコノミー技術研究組合	桑江 理事長

（2）オブザーバー 計86名

千葉県（環境生活部温暖化対策推進課、農林水産部水産局水産課、銚子水産事務所、館山水産事務所、勝浦水産事務所、水産総合研究センター）、
沿海市町村、漁業関係団体、民間企業

4 概 要

小嶋会長（県農林水産部水産局長）の挨拶の後、構成員の承認を得て会長が議事を進行了。

議題（1）千葉県ブルーカーボン推進協議会の設置について

協議会設置要綱により、協議会の目的及び協議事項について事務局から説明した。

議題（2）基調講演

① ブルーカーボンに関する国内外の動き

…ブルーカーボン共同研究機関 研究代表 堀 正和 氏

【質疑等】

原 構成員）他国で海藻養殖が飛躍的に広がっている話があったが、モチベーションとなったものは何か。また、他国では環境の影響をどのように捉えているのか教えていただきたい。環境に合った海藻を養殖しているのか、養殖している海藻種が環境に合うような形になっているのか。本県も江戸前のノリの産地であり、海藻養殖を進めていきたい一方で環境が合わなくなっている状況もある。

堀 構成員）1点目について、国により事情は違うが、海で食料を生産可能である点が大きい。気候変動により、多くの地域で農作物の生産が苦しくなると言われているが、

海藻は水（淡水）を使わずに生産出来るというメリットがある。

2点目について、海外では海藻養殖が始まったばかりであり、養殖技術が確立している種を中心に養殖している。カラフトコンブ（シュガーケルプ）の事例を見ていただいたが、世界では約5年前までそればかりが養殖されていた。今では生物多様性を考慮し、地元には生える海藻を養殖する研究開発が行われているが、知識と技術が日本のように洗練されていない。一方、中国や韓国など昔から海藻養殖に興味を持っているアジアの国々では、日本の技術も活用されているが独自の優れた技術を持っている。

小嶋 会長）北海の事例では、洋上風力発電施設の間に養殖施設が設置されていたが、波浪の影響は受けないのか。千葉県では、東京湾側はノリ養殖が行われる一方で、外房側では波浪で施設が壊れてしまうので養殖は難しいということになっている。

堀 構成員）北海などでは洋上風力発電施設が何百基と設置されており、多少は波浪の影響が軽減される。現地では「海域活用として海藻養殖を進める」という気持ちがあり、海域特性に見合う養殖システムの新規開発で施設を作っている。

風力発電以外の事例として、アメリカやカナダでは、沖合での養殖が実施されており、施設の技術開発が行われている。また、食害が問題となっている地区では、食害対策用のロボットが導入される事例もあり、こうした動きは日本より海外の方が進んでいる状況にある。

② Jブルークレジットの取組状況

…ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 理事長 桑江 朝比呂 氏

【質疑等】

原 構成員）Jブルークレジットの認証数について、地域差が多いように思うが、認証数の多い地域の特徴や、少ない地域の課題があれば教えていただきたい。また、クレジットを購入した企業へのアンケートにおいて、「地元を応援したい」ということがキーワードであり、地元で愛されるプロジェクトであることが必要とのことだったが、具体的におすすめの事例があれば教えていただきたい。

桑江 構成員）1点目について、認証数が多いのは、磯焼け対策がある程度進んでいる地域と考える。予算（水産多面的機能発揮対策事業）がついていることもあるが、事業に付随して地元で磯焼け対策の協議体があり、ある程度データを保有しているケースがある。新規でプロジェクトを進める場合、元手となる資金の確保や、実施体制などを考えるのに時間を要すると思う。

また、空白地点の特徴としては、例えば砂浜が広がる海浜であることや、断崖絶壁などアクセスしにくい場所であること等があり、取組が難しい状況にある場所と思われる。こうした場所で活動する場合、従来とは違う方法、違う種を検討しなければいけない可能性があると感じる。

2点目について、地元で愛される取組として具体例を挙げるとすると、小学生が関わるようなプロジェクトがある。小学生が苗を作るなど何かしらの形で主体的に

取り組んでいるケースであると、クレジットの公募時に人気が出る。購入企業の多くは地元の中小企業や大手企業の支店であり、小学生が関わると大人としては応援したい気持ちになるのかと思う。

また、バラエティに富む主体による取組や、都市部で生まれたプロジェクトは人気がある。関わる人の絶対数が多いと、関心が高まり、応援したいと考える人が増えるためと認識しており、そういった点では、千葉はポテンシャルがあると期待している。

議題（３） 県内の取組事例について

事務局から県内の全体的な取組事例（県が直接関与する取組及び民間企業等が主体となる取組）を紹介するとともに、各地区の主要な取組事例について説明した。

【質疑等】

高梨 構成員）藻場はアワビ等の漁場として重要な場だが、近年、磯焼けが急速に拡大している。漁業者のために県は引き続き磯焼け対策を重点的に支援していただきたい。

また、磯焼け対策については、人手、資金、技術やアイデア等が必要となって漁業者だけでは非常に難しいところがある。ついては、今後は行政、企業、研究機関など漁業者以外の協力も重要と思われるので、ブルーカーボンという新しい考えも取り入れながら、藻場の保全・回復に努めていただきたい。

事務局）磯焼け対策は県の重要な施策の一つであるので、今後引き続き支援していきたい。

また、漁業者以外の協力という点については、近年企業と漁業関係団体が連携した取組が広がりつつあるので、状況に応じて、企業の力も借りながら、取組の継続・拡大につなげていきたい。

大木 構成員）経済協議会を構成する企業の多くは、東京湾岸に所在する工業地帯等にあり、CO₂ 排出量が多いため、排出削減に取り組んでいる。企業の中には、藻場造成など CO₂ 吸収の取組に積極的に関与したい社もあると思うので、県のリーダーシップに期待するとともに、企業が乗りやすい形となるようお願いしたい。

また、企業が乗りやすくするためには、企業側のメリットやインセンティブにつながるものを頂けるとありがたい。例えば、取組に参加した企業が、ロゴ（例えばチーバくんなど）やアマモの名刺を使用可能にするなどの案があると思う。森林では「ちばぎんの森」など企業名が入った例がある。企業側も、社会貢献に取り組んでいることを株主や社会に向けてPRしたいと考えることもあると思うので、企業が参加しやすいメリットについては是非考えていただきたい。

議題（４） 令和７年度以降に協議会が実施する取組について

【質疑等】

大木 構成員）先ほど、小学生の参加が一つのキーポイントという話もあったので、教育委員会等と連携しながら、子供の参加を促すような事業も進めていければ良いと思った。

事務局）現在民間企業や漁業者等をターゲットとしているが、今後は教育機関も対象に普及啓発等が出来ればと思う。

その他：オブザーバー質疑応答

漁業関係団体）堀構成員の講演の中で、世界中で磯焼けが起きていると説明があったが、原因が分かれば教えていただきたい。

堀 構成員）日本と同じ緯度帯の地区で磯焼けが起きており、基本的には気候変動の影響として海流の変化による海水温上昇や食害と言われている。特に地中海ではアイゴの仲間が増えたことにより、アマモの仲間が大きく消失した事例がある。

民間企業）桑江構成員の話にもあったが、ボランティアベースの活動は持続可能ではないという点に着目している。ブルーカーボンの取組を持続可能な社会のために実施したい。質問として、事務局からマッチングの説明があったが、検討の流れを教えてください。既に人材や予算の確保が済んでいる状態の地域が複数ある状態なのか、初期の段階から一緒に検討するのか。

事務局）初期の段階から検討することを想定しており、まず県内のどこかで取組を実施したい等の話を伺い、その後協議会で適した場所を検討するという流れを想定している。

民間企業）企業としても、関東近郊の千葉県で実施出来るということがモチベーションにつながると思う。まず千葉で実績を作って、日本全体に広げられればと思うので、マッチングを活用させていただければと思う。